

櫻

けやき

小牧幼稚園 園だより 第393号 2024年5・6月
教育目標「神を敬い 人を愛し 平和を作り出す子どもを」
年主題「さあ、漕ぎ出そう 奏でよう」
年聖句 イエスは言われた「私は道であり、真理であり、命であり、私を通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない」
ヨハネによる福音書 14章4～6節

春を迎え、連休も終わり、休み明けに、幼稚園が嫌になる新入園児が心配でしたがそんな様子もなく、新しい環境を迎え2カ月になろうとしています。ただ、寒暖の差があり、暑かったり、大雨だったり、環境にうまく適用できなく、まだまだ体力の無い子どもにとって、消耗するような日々が続きます。10年ほど前なら、春が来て、青葉が茂るようになると、もうすぐ夏が来る、と体で感じ覚えることができ、小さいながらも体でその感覚を、覚えていくものですが、この数年は、難しく感じています。

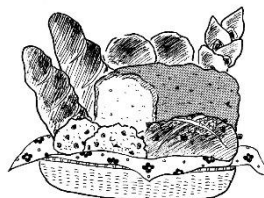
コロナは感染症法上5類に位置付けられることになり、1年が経とうとしています。今もその影響が続いています。コロナ以前とコロナ禍、コロナ後の今と分類できるとすれば、それぞれ子どもに、幼稚園を楽しい場として提供できるように試行錯誤しながら過ごしてきました。コロナ以前は、「例年」の日案・月案・年案の上に積み重ねればよかったところ、コロナ過ではほとんどすべてが否定されるような状況となり、今まで「群れて遊ぶ」ことが基本のあったことが、群れてはいけないような状況に置かれ、マスクをして、手洗い、うがいなど遊ぶ度に行うなど窮屈な生活を子どもたちに強いて来ました。余談ですが、園の物置にはこども用フェイスシールドが山ほどあります。当初、観劇など全員が集まる場では、フェイスシールドをかぶりました。中日新聞にはその様子が掲載されましたが、クリアファイルのようなもので、物が歪んで見ると、評判が良くないため、数万円したものが、一度でお蔵入りになりました。また、消毒液が手に入りにくいときは、卒園生の家庭から定期的に消毒液の寄付があり、大変助かりました。取引先の帽子屋さんからは、大量の子ども用マスクも寄付され、随時使用しています。このように、物理的な協力のもと色々試行錯誤をしてきました。大事なことは「子どもがコロナ過でも幼稚園で、どのように楽しく過ごせるか」ということです。私たち先生みんなで考える4年間を持ってきました。「例年通り」ではない子どもとの時間の持ちようを考え実行してきました。先生たちもコロナ感染を防ぐため、外部研修はズームで参加したりして、園内研修の充実を図り「学ぶ」機会を失うことなく子どものため、日々研鑽をしてきました。コロナ等感染症を防ぐ努力は大切ですが、この機会に学ぶことも多くあり、今後に生かさなければなりません。

コロナ後の新しい社会に「さあ、漕ぎ出そう、奏でよう」が今年の主題となります。家庭と幼稚園で共に「漕ぎ出そう！ 奏でよう！」は有りませんか。

(先日の家庭学級での話をまとめてみました)

6・7月の給食メニュー

6月	4日(火)	デニシュパン ソーセージ 果物
	6日(木)	ベーコンライス 果物
	7日(金)	けんちん丼 果物
	11日(火)	ワッフル 鶏の唐揚げ 果物
	13日(木)	五目冷や麦 果物
	14日(金)	麻婆茄子ご飯 果物
	18日(火)	デニシュパン ソーセージ 果物
	20日(木)	けんちん汁 ゆかりご飯 果物
	21日(金)	ハヤシライス 果物
	25日(火)	クロワッサン 手作りコロッケ 果物
	27日(木)	冷やし中華 果物
	28日(金)	五目春雨 ご飯
7月	2日(火)	クロワッサン 鶏の唐揚げ 果物
	4日(木)	ジャージャー麺 果物
	5日(金)	夏野菜カレー 果物
	9日(火)	デニシュパン ソーセージ 果物
	11日(木)	ひじきご飯 果物
	12日(金)	ミートソーススパゲティ 果物
	16日(火)	クロワッサン フランクフルトソーセージ 果物



*食材の都合により変更も有ります。

☆来年度入園に関するお知らせ。

7月1日(月)から18日(木)まで幼稚園見学会が始まります。1日2家族以内で行います。6月3日から予約を受け付けます。詳細は問い合わせください。

入園願書・入園予約は9月2日(月)から、入園受付は10月1日(火)ともに幼稚園までお願いします。

未就園児体験プログラムして夏休みに「わいわいクラブ」があります。来年度、小牧幼稚園に入園予定の子どものためのプログラムで、8月5・6・7日の3日間の開催になります。詳細は問い合わせいただくか、在園生の家庭には、申込書を配布します。ホームページにも掲載しますのでコピーしてご利用ください。

☆1年通して開催中の、未就園児支援プログラム「ポッポ」も申込受付中です。

「細き身を子に寄り添う燕かな」蕪村。燕が飛ぶ季節になりました。桃花台中央公園の舞台の天井でも、子どもに餌を運ぶ親鳥の姿がありました。私たちが燕に習い子に寄り沿えたらと願います。